

神々と供養と光と音

立石 光正 山修山学林*

Gods, Puja, Light and Sound

TATEISHI Kousyou

三昧法螺声 一乗妙法音 経耳滅煩惱 當入阿字門 〈法螺貝〉

和歌山県熊野から参りました修験者、山修山学林というところも主催しております、修験行者の立石光正と申します。よろしくお願い致します。今日は冒頭に“繋がる”というお話をさせていただきますけども、魂との繋がり、心理学に魂を取り戻すということで、一番始めの冒頭、魂を取り戻す、修験道的に徐々に話をしていきたいと思っております。まず私達は、絶対大事にしていることがあります。本来話しませんが、今日話しましょう。

実は、行者自身は五大を持っています。この五大というのは大日如来の構成要素を私の身体が持っているということ、例えば仏心とか、仏教ならそう言いますが、修験道の行者の中でもっとも大事にしているのは、まず大日如来の構成要素を私のこの身体が持っているということです。五大ですから、地・水・火・風・空、地というのは固いもの、だから皮・肉・骨。水というのは、血です。火は体温です。風は脈拍、心臓です。空というのは耳の穴、鼻の

穴、そして口。これは呼吸し、瞑想し、自分が“空”に通じていく。この大きな、新しい、まさにトランスして、どこにコネクしていくかというそのための“空”なんです。この五行をまず自分がとらえること。だから、今法螺貝を、例えば私は、どういうために法螺貝を吹いたか、どういうために皆様にも聞こえました？ いかがです？ この音を聞いて。きっと何か響いたと思います。まず第一の法螺は、三昧法螺声、だから“地”の法螺唱は、大地に広がる。水の“水”法螺声は、水に繋がる。“火”の法螺声は、火に繋がる。“風”、“風”の法螺声は、風に繋がる。そして最後の今言った“空”は、まさに魂に広がっていく。そのために行者は、その行を法螺を通して絶えず実修実験の世界に入っていきます。だから、修験道といえば例えば“験”を求める、そして次には、実際に“験”を求めるための“道”、そして験が育つつまり修験の行者となっていく“道”、そして一番最後には実際に“加持祈祷”を修する、ということでもあります。で、そういうことですから、行者が実際に、加持修法をしていく世界で、この力を得たこの験力が当時の人々、例えば皇族とか、そういう貴族達の争いに加担したりして、結局、暗躍していくというそういう世界にもっともそういう力をもっているという宗派になってくわけです。だから、それは修験道が日本古

* 〒647-1203 和歌山県新宮市熊野川町大山1256
山修山学林

来の山岳斗薮、および時代に、仏教とか、道教とか、陰陽道とかそういうものを取り入れながらにして、実践的かつ進化してものすごく強化していったっていうそういうことが事実にはなりません。どうやってじゃあ“験”を得るかっていうと、超自然的な力を得るっていうことは、ここではものすごく大事なことなのですが、それは今はじめに言ったように、見えない世界と繋がっていくということだと思えます。見えない世界、まさに大地、音、そして水、火、風、空は私が直にその自分のドアを開けて、そこに近づいていく。いろいろな仏菩薩、あるいは化身した神々が現れます。でもその時に、どのぐらいのレベルの中で近づいてくか、どのぐらいのレベルのところで繋がっていくか、例えば狸や、例えば^{むじな}貉やそういう低レベルなところに繋がっていく場合もある。だからものすごく注意しなくてはいけない。だから、どういう風にして自分が見えないその世界と繋がってくかっていうところで日々我々行者は実修実験的な体験をしていくわけです。その中に私達行者がとっても大事にしているのが、山岳斗薮です。例えば、千日回峰行とか、百日、例えば参籠行とか、例えば滝行とか、色んな行がありますけども、今日は特に一般の人も踏まえた中でどういう風にしてこれが近づいてくか、で行の中で必ずこういうマントラを使います。

懺悔懺悔、六根清浄、登らせ給え、上がらせ給え、懺悔懺悔、六根清浄、

懺悔っていうのは反省しますということ、六根は五感と心から起こるところを反省して清めて浄化して、だから行者自身が三次元的な自分、そして四次元的な、精神的な自分を聖地、例えば私は金峯山寺に属してましたので、昔、山上蔵王堂にまさにこの四次元的なこの魂をまず上げておいて、蔵王権現さん、そしてその地

に癒されながらにしてこの三次元の私が息を出し、声を出し、汗出して、糞出して、精出して、懺悔懺悔六根清浄、登らせ給え、上がらせ給え、懺悔懺悔、六根清浄。山の中でね、まあ私は嫁さんもあります子どももいます。また弟子達もいるし、当然その、弟子っていうか仲間ですよ、そういう仲間達も家庭があってね、当然会社も持っています。その道中で声出して、汗出して、気合い出して精出して、その中でそれぞれがその道中反省しながら初めて山上蔵王堂に着いた時に、自分の魂に触れた、触れた瞬間に、はあ……、それぞれが思うんですよね。そしてその、魂に自分と同化して、きつとああよよしよし、俺、下山して家帰ったら「こういうことあったよなあ」とか、「あ、これちょっと子どもに対してのこの言葉強かったよなあ」とか、まあ家庭に帰ってこの反省心を思い起こすと思うんです。次にはね、やっぱり世界において自分がやっぱりこういうことしようとか、だからこの、千日行とか、千日籠山行とかそりゃあ色々ありますよ。でも絶えず、自分が懺悔懺悔六根清浄を繰り返しながらにして、自分に繋がっていく反省しながらっていうのも大切な、修験道の行の一環だと思います。

いかに繋がっているか。今、私はここで、法螺貝吹きましたけども、パフォーマンスではないんですよね。全然パフォーマンスではなくて、今のは地・水、2音なんです。まず大地の音、大地皆さんがこうやって座って、気持ち良く、この今日の学会が取り行われて、そして尚且つ今日そして明日に繋がって、まさに善処全有、良い気持ちの中でこの学会がシンポジウム終わっていくという、私の見解です。そういう気持ちです。そういう気持ちで今回見解を話させていただきました。こうして行者は、こういう行を重ねて、まあ精神性を高める一方で、今さまざまな陰とか明とか、例えばこの法螺、もう一つには、〈腕を三角の形に動かす仕草をしながら〉

階5階建てのビルディングみたいところで、トットトットトットトット上げて上がらせていただいて、若い人がいるんです。2階に上がっても「病院だな」っていう、ホルマリンの匂いというんですか、あの匂いがないんですよ。でも、「You go.」って彼がその「You go.」言った時にこんなこと言ったんですよ。「Karateman, You go.」「ん?」、カラテマン、頭朦朧としてるんですよ、「ちょっと待って、空手?」、まあいいです、行きました。入ったら、なんかこう、薬臭くも何も臭くない、ただそこにボンッと入れられてベッドがあったのでドスッと座りまして、頭朦朧としてるから「早く病院、病院連れていけよ、病院なんだろう?」って言ったら、「Gest house. Student gest house.」って言うので、「おいちょっと待ってよ! Student gest house じゃなくて、俺空手マンじゃなくて、俺は病人だ」って言ったんです。そうこうしてるうちに、もう2LDKか3LDKくらいの部屋に学生達若いのドドドドド、どんどん入ってきて、「You are welcome. Japanese Karateman.」とか言って「違うって、病人だ!」。そこで甘い甘いチャイを飲みながら、そうこうしてるうちに、なんとこう、歌がね、歌が入ったんです。歌、コーランじゃないんだ、病院に行きたいんだよって言ううちに、「え? 何だこれ」、で、まあわかんないから、パプパプパプパプーとかいって、次にボディドラム、〈胸を叩きながら、歌〉、「おい、頼むよ」、でこんな感じでずっといって、次の日になっちゃったんです。朝気が付いて、「お! ここはどこだ?」ってな感じで、「あ、これは病院だ」と思って足を見て、そしたら一切、足の指がみんだけ腫れてたのに、全部無し。まっさら。

そして、この記憶は、いいですか? 何年後かにお寺に入って、千日回峰行じゃなくて百日回峰行やらせてもらったのですが、その回峰行のど真ん中の時に思い出したの。こういうことありました。もう一つだけ。

私の友達の友達が遠野っていう所でゆうそくてん建てるらしいよってことで、まあ若い時です。1970年後半ですけども、行った時に、まだ途中だから散歩してたんですよ、そしたら遠野って皆さんわかるように遠野物語および江戸時代に冷害でたくさん亡くなってお百姓さん達がね、それで五百羅漢さんとか掘られてる、それ線彫りのね、5mぐらい、横3mぐらいの所に線彫りで掘られてるんですよ、その標識がありますから。といたって見えないのです、もう三百年経ってますから。その三百年経ったものが、なぜこういう話に出るかっていうと、僕当時ね、今でもやってるんですけどオカリナっていうのをやってまして、「あーそうか、ここでこうやって亡くなったんだな。あーそうだ。じゃあ何か一つこう供養でもしてやろう」なんていって、少しは供養だとかねお寺に入る前は知ってたんですよ。さっと目つぶって、で、オカリナをこう吹き始めた、そこ苔むしてるんですよ、3分5分経ったのかな、ピカッと目を開けた瞬間に、三百年間苔むしたその五百羅漢の線が、全てが光ってた。バーッ、全部のまさに五百羅漢がクッキリスッキリハッキリ。ビックリした。だからこういう不思議なことって実は時間があつたらいっぱいあるんです、だから修験の行者になっちゃったわけなんですけどもね、“ならされた”って言うてもいいんですけども。こういう事の中に、“光”っていう世界ももらいましたら、光の存在、音・光・香り、これは私が徐々にこれから知っていく事実なんですけども、まさに70年代、自分が癒されたモロッコ、これは癒しの原点としてまだあるんですよ。

そして次に、音が光に変化していくその様、それはやっぱり繋がったなと思った、その時に。こういう経験の中で、自分が実際にお寺に入っていくんですけども、こういう、自分の中で修業を通して、あ、まだ修業じゃないです

ね。日本に帰ってきたんです、8年ですから、いいかげん飽きちゃってきた。その中で、「よし！ 南米だろう！」と思ったんですけども全然面白くない。全然面白くないんですよ。何でかという、もうさんざん旅の中でいっぱいあったんです。

私は、ある兄弟子、医者だったのですけれど、その兄弟子と出会って金峯山寺っていうお寺に入るのです。その中で、私が、やっばこういう風に繋がっちゃうっていうことは2つあるんです。1つは、お寺に入るってことはまあしょうがないと、旅行するってことはやっぱり反省があるってことですから、反省しなくちゃいけないって、よし、野生の雀が鳥籠に入って、兄弟子に2年、2年とにかく頑張れって、「わかりました」っていうことで初めてその年、初めて行を始めたのが護摩加行と言います、それは、40日間、10月から12月まで。護摩加行というのは、護摩を修法するために、色んな作法をやるわけです。当然、作法中に水かぶんなくちゃいけないんです。11月後半、12月になったらもう靴、ひび割れ、すごいです。何故かという、いいですか？ 〈作法の手の動作を行う〉とか、こんなようなものの連続が20、30、40続くから、この第二関節とか第一関節の全部力が入るからみんな割れてくる。そして40日目にこれも満行を迎えましてめでたくお師匠さんと私の両親とかそういう人と食事する、つまり直会の時間がありまして、「あーよかったね」って、光正って名前だから「光正さん、良かった」「いや、どうもありがとうございます」ってことで、その自分の参籠所に戻る途中でハッと手を見たら、なんと全部靴ひび割れが全部元通り治ってる。全部スッピンピン。

これ嘘じゃないですよ、これ事実しか話してない、行者は法螺は吹くけど嘘は言わない、真実。

「うおっ、まずい！ これはまずい」、本当に

まずいと思ったの。はい、何でもまずいと思ったか？ さっと言える人、おります？ 何で私「あ、これはまずい！」と思ったか？ 本当に思ったんですよ、これは、これはまずい。

言います、時間がないので。私は、修験道の坊さんになりたいと思って入ったんじゃないくて、次の南米の旅に行きたいから、反省とってお寺に入って、少しでも反省して、次の旅ができるであろうという思いで入ったんです。この寺でお不動さんと結縁を結んじやったわけですよ。まあお不動さんと結縁を結ぶなんてことは、この金峯山寺って寺に残んなくちゃいけないってことで、「いや待てよ」、考えましたよ、30秒ぐらい、あ、そうだ、〈手を一度叩く〉なんだよ修験道ったら優婆塞優婆夷じゃないかよ、そうだお坊さんにならなかつたっていいんだよ、優婆塞優婆夷で旅をしてても行者ですって心を残してまた帰ったって、また行者を続けられいいんじゃないか、なんてそんな気持ちでね、スツて終わったんですよ。この話はここまで。

それで次に回峰行って100日が続くんです、100日は自分の中でね、なーんかだんだん深いの中に入ってきちゃったな、実に深いなんかこう、やばいなと思ったら、修験道のお坊さんになりそうなんて思いのところ、行が80日。100日の回峰行ってというのは始めの50日が25キロ、後51日から100日目ってのが50キロ。そういう中で出会った諸々っていうのがもう疲れちゃって。70日後半から約2週間の大雨が降って、自分の膝から下までずーっと3時間ぐらいが水の中。そんな中歩いて行くんですよ。それは効きますね。で、最後自分が、自分が蔵王堂50キロ帰ってきて、あーもうくたびれちゃったから、ちょっと気抜きながらもうお経あげようかと、まあしょうがないなと思った途端に「それはダメだよ」って心の声、「それはダメだ」、おっ、どっから来たんだよ、ダメだよって言うんだからそうだ管長さんが、その日

をとにかくひたすら生きろと、そうじゃなくて一番初めに回峰行やる時に管長さんに「やらせてもらってもよろしいでしょうか？」って言った時に、管長さんこう言いましたよ、「死ぬ覚悟あるか？」って。で、こう言いましたね、「生きて生きて生き抜く」って。その話を思い出した時に、よし、この今日の81日目、何日目でもよし、思い切って声出して終わらしていこうと思って全部終わって、はあ、メロメロですよ。

そして自分の参道をどんどん下った時に、シュツ、シュツ、シュツ、わかります？ シュツ、シュツ、さあ何だ？ この根源を探してシュツというから、この毛穴にプラーナっていうのか、わかんないですよ、この毛穴から空気が入ってくる、だから見た、シュツで。こっちかなと思ってこっちも見た。音を出して本当に入っていくんですよ。本当に疑うのは私なんです、でもそれは事実だから。だからねこの行中で、本気でやんなかったら繋がらない。もう絶対繋がらないんですよ。だから、これ大事な言葉なんで、読ませていただきます。

見えない世界の“因”、原因の“因”のエネ

ルギーが動くことによって、見える世界が現れている“果”、結果の“果”です、見える世界に現れている“果”のエネルギーが動いて、実際の現実が変化したってということ。すっげーよくわかった。本当によくわかった。あーやっぱりな一って。

今、寺から出て約27年、30年ぐらいになるんですけども、最も大事なことって、私達は蔵王権現さんの和讃とか修業中は読んだりとか、和光同塵っていう言葉、神道の世界の言葉でもあるんですけど、和光同塵？ 和の光？ 同じ塵？ 意味すると、仏菩薩、あるいは化身した神々が自らの光を弱めて、悩める衆生に同化する、えー？ 寺に入ってる時、最初はわからなかったのに今、本当にありがたいです、理解できます。じゃあどういうことかっていうと、私達行者がこの加持する際に、その目的に応じた仏菩薩、化身の仲介によって、大本の和光同塵、和光権現、大権現、和光同塵大権現に繋がりをしながらにして、その、直接繋がれない一般の方々を仏菩薩、化身にお繋ぎする仲介役かもしれないなと思いました。私の話はこれで終わります。ありがとうございました。